

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2025年8月7日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 京都大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科

職名・学年 特定病院助教

氏名 小島 秀信

助成の種類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成			
研究集会名	World Transplant Congress 2025			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()			
発表題目	・Pretransplant Rifaximin Treatment Improves Liver Transplant Outcomes through Gut Microbiota and Metabolite Modification ・Reconstruction of middle hepatic vein tributaries in living donor liver transplantation with right lobe graft			
開催場所	アメリカ合衆国、カリフォルニア州、サンフランシスコ、Moscone Center			
渡航期間	2025年8月1日 ～ 2025年8月7日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	35万円		
	使用した助成金額	35万円		
	返納すべき助成金額	0円		
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費目	金額(円)	
		航空運賃	204,150	
		宿泊費	112,937	
		滞在費(日当)		
		学会参加費	32,913	
その他				
	以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 助成金を渡航費、宿泊費、学会参加費の一部に使用しました。貴財団の国際研究集会発表助成に感謝申し上げます。			

成果の概要／小島 秀信

京都教育研究振興財団による 2025 年度国際研究集会発表助成にてご支援いただき、2025 年 8 月 2 日から 8 月 6 日米国サンフランシスコで開催された World Transplant Congress 2025 にて研究成果を発表させていただきました。今回は American Society of Transplantation、American Society of Transplant Surgeons、The Transplantation Society の共同開催となり、発表タイトルは「Reconstruction of middle hepatic vein tributaries in living donor liver transplantation with right lobe graft」および「Pretransplant Rifaximin Treatment Improves Liver Transplant Outcomes through Gut Microbiota and Metabolite Modification」の 2 つで、共にポスターでの発表でした。

「Reconstruction of middle hepatic vein tributaries in living donor liver transplantation with right lobe graft」の研究内容ですが、右葉グラフトの中肝静脈分岐再建においては最適な再建方法が明らかでないため、京都大学医学部附属病院で行われた右葉グラフトを用いた生体肝移植患者において生体血管グラフトと人工血管グラフトによる再建法を比較し、肝移植アウトカムに与える影響について後方視的に解析しデータをまとめました。

「Pretransplant Rifaximin Treatment Improves Liver Transplant Outcomes through Gut Microbiota and Metabolite Modification」の研究内容については、近年腸肝軸 (gut-liver axis) を介して腸内細菌叢が様々な肝疾患に関与することが明らかになってきた一方、肝移植における役割については不明な点が多いため、術前の抗生剤使用と腸内細菌叢の変化が肝移植アウトカムに与える影響についてマウス実験とヒト肝移植における臨床データをまとめました。

これらの発表に対し多くの質問をいただき、今後論文発表していくにあたり検討すべき項目を整理できたため、大変有意義な学会報告となりました。WTC での発表にあたり京都教育研究振興財団によるサポートに厚く御礼申し上げます。また、米国で活躍する多くの研究者や日本人臨床家と会って話げできたことは自分のモチベーションにつながりました。私の留学先であったラボのメンバーとも会う機会があり、米国が現在置かれている研究環境や最近の研究内容についてアップデートできたことも有意義でした。私はマウスの肝移植モデルを用いた研究を行っていたのですが、米国の多くの研究室でげっ歯類の肝移植ができる研究者を探しており、今回たくさんのオファーをいただきました。幸い当科にはラット・マウスの肝移植モデルを使用して研究を行う大学院生が多数いるため、今後ポスドクの留学先としてそれらの研究室を紹介していければと考えております。これからも国内だけではなく世界を通じて臨床や研究の知見をアップデートし、本邦の臨床や研究プロジェクトに役立てられるよう努力したいと思っております。世界的に物価が高騰する中、我々が国際学会に参加するにあたり貴財団のような助成が大変重要です。今後も継続的にご支援いただけることを願っております。今回の助成に重ねて感謝申し上げます。